

# 令和5年度 鹿児島実業高等学校 学校評価表

基本方針	日進月歩の科学技術の発達、高度情報化社会へ対応するため、建学の精神を体得しつつ、知育・徳育・体育の均衡ある全人教育を通じて生徒の個性と能力を伸ばし、国家社会の平和と進歩に貢献し得る人材の育成に努める。
教育目標	創立以来伝承されている、校訓「不屈不撓」と教育方針「誠実一貫」、「静心無言」の学習を再認識しながら、教職員の意識の高揚を図り、知育・徳育・体育の均衡ある全人教育に努めていく。
重点努力目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「静心無言」の学習を確立する。</li> <li>・学習態度、出席時数、基礎学力等に問題を抱える生徒の指導強化を行い、退学防止に努める。</li> <li>・基本的な生活習慣を定着させ、節度ある生活態度の確立を目指す。</li> </ul>

※評価方法（5段階評価） 5. 十分達成されている    4. 達成されている    3. ほぼ達成されている    2. 改善の余地有り    1. 改善すべき
--

## 1. 【学校経営】 全職員が共通の理念に立った学校経営の参画における教育的成果の評価

評価項目	具体的項目	目標	具体的方策	総合評価	成果と課題	
(1)	教育目標	学校教育目標の具現化	学校の実態に応じた目標を設定し、教職員間の共通理解のもとに、教育目標の具現化を図る。	建学の精神、中長期的なビジョンを踏まえた目標を設定する。	3.8	本校の教育目標に則した設定と実践ができている。
				目標達成の度合いを年度途中で評価・確認する機会を設け、その教育活動に生かす。(学習指導・学級経営報告書なども含む。)		学期毎に、報告書を作成し、点検がなされた。また、自己申告書で職員自らが1年間を総括し、点検がなされた。
(2)	経営方針	経営方針の明確化とその実践	経営方針が学校内外に明確に示され、教職員間の相互理解と保護者・地域の支持に基づく教育活動を行う。	教育目標や経営方針等を生徒・保護者・地域等に説明したり、広報したりすることに努めている。	3.8	新学習指導要領に伴い、より明確な教育目標が必要である。
(3)	学級経営	学級目標の具現化	学校目標及び学年目標に沿った温かい学級づくりを行う。	学校目標や学年目標に沿って、学級の実態に応じた学級目標を設定し、学級経営を行う。	4.0	学級によって温度差がないように、学校目標に沿った学級経営を行う必要がある。

## 2. 【教育活動】 教育活動全般における計画的、組織的な教育的成果の評価

評価項目	具体的項目	目標	具体的方策	総合評価	成果と課題	
(1)	教育課程の編成	創意工夫を生かした適切な教育課程の実施	学習指導要領の趣旨が生かされた特色ある教育課程を編成する	多様な生徒の能力・興味・関心・進路に応じた学科・コース・系列を設定し、特色ある教育課程を編成する。	3.7	新学習指導要領を今一度確認し、学科・コースにあった教育課程を見直すことも考える必要がある。
(2)	教科指導	わかる授業の展開と工夫・改善	創意工夫がなされた学習指導を行う。	各教科科目の年間指導計画(シラバス)を作成し、学習目的や学習方法を事前に生徒に説明する。	3.6	年間指導計画の創意工夫が見られる。ICT導入により生徒の学習しやすい環境が整ってきている。
				基礎・基本の内容を重点化した指導を行い、基礎学力・基礎技術の習得の徹底を図る。		基礎学力の定着に向けて、よりいっそうの向上が求められる。
(3)	特別活動	ホームルーム活動の充実	学校・学年の教育目標に沿った年間計画により、活発な活動を行う。	年間計画に基づき、事前準備をよく行い、生徒の問題意識・問題解決能力など「生きる力」の育成に取り組む。教職員の研究授業を実施し、技術向上に努める。	3.7	LHRの活用についての年間計画を立てるなど、改善・工夫すべき点がある。教職員の研究授業の充実が求められる。
		学校行事の充実	生徒の実態に即した効果的な行事を行い、活動内容を工夫する。	生徒の実態に即した見直しを行い、内容を工夫することにより、効果的な学校行事を実施する。		コロナや熱中症などの対策を行いながら、学校行事を進めてきたが、行事の実施時期について検討が必要である。

(4)	生徒指導	基本的な生活習慣の確立	生徒理解に基づき、全教職員でありさつ・マナー・礼儀等のきめ細かな生徒指導を行う。	服装、容儀などについて生徒心得を中心に、生徒・保護者に説明したうえで、教職員の共通した指導を行う。	3.9	生徒指導部を中心に全体集合時など使い、容儀服装の点検や、挨拶などの指導を行い、効果を上げている。生徒会が中心となって清掃活動や週番活動がなされている。
(5)	進路指導	進路指導の充実	系統的・計画的な進路指導を行う。	生徒が望ましい勤労観・職業観をもつことができるよう、各学年に応じた系統的指導に努める。	4.1	進学希望者に対する職業観の育成に、工夫が必要である。
(6)	教育相談	教育相談の充実	生徒の持つ悩みなどの解決を援助する。	生徒の悩みに対して、担任・副担任を中心に解決策を見いだしていくが、状況に応じてカウンセリング部・学校カウンセラーとの連携をとり、問題解決にあたる。	4.2	担任・副担任はもちろんのこと、教科担当者や、学校カウンセラーとの連携がとれている。
(7)	生徒会活動	生徒会活動の充実	自主的な生徒会活動を支援する。	生徒会行事に生徒が自主的に参加できるような工夫と呼びかけを行う。	3.9	生徒が自主的に活動を行っている。
(8)	健康・安全教育	健康や安全に対する態度の育成	健康・安全な生活を送るための指導を行う。	生徒の心身の健康について、学級担任・分掌等の連携を密にした指導を行う。	3.9	日々の健康観察などしっかりできている。担任と保護者の連絡がしっかりとできている。
(9)	部活動	部活動の活性化	部活動への参加を奨励し、活発な活動を行う。	部活動と学習との両立が図れるよう連絡・調整を行う。	3.5	学校生活を部活動中心に考えている生徒がおり、学習との両立を図る指導をよりいっそう強化する。
(10)	個別指導	個を生かす指導の充実	個に応じた指導の一環として、学習支援、各種資格取得を奨励する。	生徒の意欲的な生き方への支援を積極的に行い、個々の生徒に応じて、特に資格取得など適切な指導助言を行う。	3.9	1年次からの細やかな指導ができれば、効果が上げられる。

### 3. 【組織運営】 教育活動の円滑化、教師集団に関わる教育的成果の評価

評価項目	具体的項目	目標	具体的方策	総合評価	成果と課題	
(1)	校務分掌	適切な役割分担、組織的な活動と運営	各自の役割分担が明確であり、分担に応じて適切に校務を処理する。	分掌・学年・学科・教科の役割を明確にし、各会議を適切に行う。また、職員に周知し、共通理解を図る。	3.8	各分掌の長を中心に指示系統がうまくいき、円滑に運営できている。その反面仕事に偏る傾向があるため分担が必要。
(2)	各種委員会	目的に応じた適切な委員会の設置とその運営	目的に沿って適切に委員会を設置し、運営する。	各委員会の設置目的を確認し、その実現に向けて効果的な話し合いを行う。	3.7	それぞれの各委員会で、効果的な実現に向け、努力している。
(3)	校内校外研修	研修体制の確立と実践	計画的・組織的に行う。	校外から講師を招き、視野を広げる講演会や研修会を行う。	3.7	コロナ禍のため、郊外の講師を招き研修等実施できなかったが、校内で工夫し実施。
(4)	職員教育	教職員の資質向上への取り組み	教育関係の研修に積極的に参加し、視野を広げる。	教育センターや私学協会等で開催される研修会を積極的に活用し、教職員の資質向上を図る。	3.3	コロナ禍のため、外部の研究会や研修会等ズーム等を使い参加。これを機により多くの教職員が活用できるような取り組みが望まれる。

#### 4. 【教育環境】 学校の置かれている条件や環境に関わる教育的成果の評価

評価項目		具体的項目	目標	具体的方策	総合評価	成果と課題
(1)	学校環境の整備	潤いのある生活環境の整備	校内美化に努める。	日常の清掃活動に全校生徒、全職員で積極的に取り組む。	4.2	生徒・職員が一体となり、取り組んでいる。
				日常生活の中で環境美化に対する意識を高める指導を行う。		個人差があり、更に充実できるように指導を行う必要もある。
(2)	施設・設備の管理	活用と安全管理	施設・設備の有効的な活用が図られ安全点検等の管理を適切に行う。	施設・設備の安全点検や補修を行い、環境整備を図る。	4.1	定期的に安全点検を行っている。
				日常の教育活動や指導は、常に安全を優先して行う。		日々実践できている。

#### 5. 【開かれた学校づくり】

評価項目		具体的項目	目標	具体的方策	総合評価	成果と課題
(1)	保護者との連携	協力体制の確立	生徒に関する情報を相互に交換する。	個々の生徒について、学校・保護者が緊密に連携を保ち、相互に連絡を取り合う。	4.1	担任が責任をもって、協力体制の確立に努めている。登下校指導・校内清掃などPTAからの協力がしっかりしている。
(2)	地域や関係機関との連携	協力体制の確立	学校方針や具体的教育活動についての情報を提供する。	ホームページの更新を定期的に行い、学校情報を積極的に発信する。	4.0	中学校訪問を計画的に実施すると共に、タイムリーな情報発信がなされている。